

鯉淵同窓会兵庫県支部だより (第 16 号)

書面表決で全議案可決

兵庫県支部は、新型コロナウイルス感染拡大を防止するために、恒例行事となっている支部総会を書面表決方式で行いました。

令和3年6月14日に全会員に対し総会資料と書面表決書を送り、書面表決の賛否を求めたところ、会員総数98名の半数以上にあたる57名の会員から全議案の賛成があり可決いたしました。

支部役員の改選では、会計監事の交代がありましたが、顧問、会長、副会長、事務局長は留任ということで再選されました。

また、支部運営費として、全会員に会費1,000円を請求していますが、一部会員のみが会費を支払い、以前より支部だよりの発行経費で不公平感が生じていました。そこで、今回発行する第16号支部だよりから、会費を納入した会員だけに限定して支部だよりをお届けすることにしました。

今後とも、支部活動に多大なご協力を賜りますよう衷心よりお願いを申し上げます。

(兵庫県支部会長 福井 寛行 26期生)

先輩・同窓生の追悼文

最近、他界される先輩・同窓生が多く、お世話になった感謝の意味を込めて、支部だよりに生前の思い出を掲載することにしました。

前回の第15号での特集企画「加藤 整先輩を偲ぶ」に続く企画であり、令和3年度同窓会支部の総会書面表決の案内時に、「先輩・同窓生の追悼文」を募集し、お寄せいただいた追悼文を掲載いたしました。

加藤先輩を偲んで

出店 利彦 (19期生)

加藤先輩の訃報に接し、偉大な先輩を失ったショックで、悔い入るように第15号「特集企画」を拝読しました。

小生、昭和39年に県職員となった時から中央会に加藤先輩が活躍されていることは存じていました。山崎、豊岡、篠山、竜野に単身赴任した折、農林事務所で鯉淵出身と自己紹介すると、必ず加藤先輩の名前が上がり、加藤参事の家に行くことと蔵書で埋まっていると聞かされました。

それを知っているかと尋ねられ、知らないと答えると、一度訪問して勉強しなさいと上司の言葉で名刺交換をしました。また、私共の関係機関である農協の組合長等から「学校は？」と聞かれ、鯉淵と名乗ると加藤参事は農協の理論的支柱だ、山田昭二専務の後継者だとの話を聞くたびに身の引き締まる思いがしました。

但馬で同窓会があり、加藤先輩の案内で旧養父郡伊佐村の小出満二先生の生家を訪ねる道すがら、同乗した加藤先輩に蔵書2万冊ぐらいお持ちですかと聞くと、それ以上あると思うが勘定したことはないと話されました。

加藤先輩からは、柳田国男先生の「風土」を読むように進められ、さらに鯉淵の図書館の中に古書図書館があり、満蒙開拓指導者養成所時代の文献や小出文庫が所蔵されていることは知っているかと聞かれ、私が図書系の野中女史に鍵をもらって入ったことがあると返事すると、それなら話が早いと言っていただき、鞍田学園長の恩師である那須 皓先生らが中心になり、1937年に「満蒙開拓青少年義勇軍編成に関する意見書」を政府に提出し、当時の石黒大臣に認められ設置されたのが、指導者養成機関の所謂内原訓練所であると教えられました。

また、加藤先輩は、初代学園長の小出満二先生に薫陶を受け、先生の小伝の一節を紹介され、「鯉淵の教育は、個人の完成にあり、確固たる信念により動き、自己の責任を果たす人物になれ」という語源を胸に吸収し、普及の仕事と人生を過ごして参りました。

加えて、「農政は流れに棹さず筏師の役割だ」との指導を鞍田学園長の農政学講座から学び、座右の銘として生活して参りました。

鞍田学園長の恩師が那須 皓先生であります。学園の炎天下の7月下旬と8月下旬の各5日間の夏季実習、3週間に1回廻ってくる農場実習を学生の必須単位として重視したのは、那須先生の半日講義、半日実習という精神を受け継いだからだと今は亡き鞍田学園長から聞きました。

加藤先輩の奥様は、但馬の人だと思いましたが、原稿を拝見し茨城の方だと知りました。出石郡出石町で昭和37年、地区の公民館で会費制の披露宴をされたそうで、但馬の因習的、慣行的な田舎にあって、自ら農村の民主化を開拓された方と感服いたしました。

加藤先輩は、農村の民主化を原点に農協、生協活動に生涯を捧げてこられました。本当に惜しい人材を失いました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

奥様には気落ちすることなく、同窓会に参加願ひ、加藤先輩との思い出をおしゃべりしたいと思います。

柴垣さんを偲んで

岩本 佐知子 (20期生)

私は柴垣仁司さんと同期ですが、彼はとても優秀な学生だったと記憶しています。私が授業に出席せず、演劇部で松の木や岩などの大道具を熱心に作っていましたので、学園内で柴垣さんに出会うと、「勉強しろ」と言われたことを懐かしく思い出します。柴垣さんのご冥福をお祈りいたします。

在りし日の柴垣さん



ご自宅玄関にて

もう少し長生きを

福井 寛行 (26期生)

令和元年に加藤先輩がご逝去されてから1年

後、令和2年5月に柴垣先輩の訃報が入りました。当時、お二人とも同郷（出石町）であり、鯉淵同窓生であり、また元JA中央会職員で優秀な方が、このように続けてこの世を去られるのかと思うと、なぜか運命のようなものを感じました。

柴垣先輩は、経営指導関係には誰もが認める優秀な方で、特に合併関係には数々の難しい問題を解決されました。私が合併推進業務を担当していた頃、問題に行き詰まり困った時には、JA合併の基本を教えていただいたことを覚えています。多くの職員の前で、理路整然と農協の経営を論じられていた柴垣先輩を懐かしく思い出します。

退職後は、地元農協の役員に就任され、また地域の発展にも尽くされたとお聞きしています。

ただ、もう少し長生きして地域に貢献していただきかったと思います。ご冥福をお祈りいたします。

同期生の今北耕司君を偲んで

長尾 輝夫 (24期生)

昨年12月、電話をくれた最後の元気な声が今も忘れられません。今、思うとお別れの知らせだったのかな？ 彼とは家も近く、良き相談相手であり、何事も快く引き受けてくれ助けてくれました。

神戸新聞の読者投稿欄（3年6月5日）にも、彼の实直で温かい人柄を偲んだ記事が掲載されていました。だれからも親しまれ、そば座敷を続けてほしかった思いはみな同じでしょう。

これからも、24期生仲間たちは、彼の笑顔を忘れることはないでしょう。心より今北君のご冥福をお祈りいたします。

こんなに早くお別れするとは

吉川 千鶴子 (24期生)

今年1月に亡くなられた今北さん、学園時代には体育部長として活躍されましたね。いつもにこにこ笑っていて、包容力があり人から頼りにされる存在だったと思います。

農協を退職して、そば座敷「いまきた」を開店され、多くのお客さんの舌をうならせてきた彼の

腕はすごいなと思います。同期生会の打ち合わせで何回か行かせてもらった折には、奥様と一緒に色々なメニューを出して頂き、舌鼓を打ったものです。

「神戸新聞の三田版に今北さんの記事が載ってるよ」と長尾輝夫さんから電話をもらって、新聞を開いてみると、大きく写真入りで彼のありし日の笑顔がはじけていました。こんなに早くお別れするとは思っていませんでしたが、病気には勝てなかったのですね。ご冥福をお祈りしています。

在りし日の今北さん



そば座敷「いきました」玄関にて

今北先輩を創刊号に掲載

福井 寛行 (26期生)

今北先輩が亡くなられたと知ったのは、長尾先輩からの電話でした。「えっ!」と言葉もなく絶句したことを覚えています。

振り返れば、今北先輩とは私の現役時代からのお付き合いで、電話をかけると「かんちゃんか!」と親しく話しかけていただき、本当によき先輩でした。

平成24年の鯉淵支部だより創刊号を発行するときに、新しい門出のイメージにピッタリと当てはまったのが、自家栽培の蕎麦を使用し、地元で評判の今北先輩の「母子そば座敷いきました」でした。今北先輩と奥様から、苦労話や将来の目標などを聞かせていただき、それをメモに書いたことを懐かしく思い出されます。その時から支部だよりには、必ず同窓生を取材し、頑張っている同窓生の姿を掲載することにしました。

創刊号で「母子そば座敷いきました」を取材し掲載できたからこそ、今まで途切れることなく支部だよりが続いており、その意味から今北先輩は支部だより発行の恩人といっても過言ではありません。

せん。今北先輩のご冥福をお祈りいたします。

近況報告

令和3年度同窓会支部総会の書面表決の案内時に、会員の皆様に「近況報告」を募集し、お寄せいただいた方を掲載いたしました。

近況報告なので、原稿を早く支部だよりに掲載する予定でしたが、編集者の私事が多忙を極めて、同窓会支部だよりの編集に影響し大変遅れましたこと、衷心よりお詫び申し上げます。

小島 好文 (11期生)

いつもお世話になっています。ありがとうございます。加藤 整さんがいなくなり、本当に淋しいです。色々お世話になっていたのに……。冥福をお祈りします。小生、今の処、元気です。

加藤 定子 (11期生)

明日、6月27日に第2回目のワクチンを接種してきます。何事もなく経過し、くらしが日常に近づいたら、外出を心がけ、目下の閉塞状態から抜け出したいと思っています。

普光江 文江 (12期生)

コロナと言う言葉を聞かない日は一度もないこの頃、私の近況と言え、大方5時に起床して、先ずは門の外の道路を掃き、次に庭の花の花殻摘み、野菜の虫捕りに始まって、6時半にラジオ体操、朝食を済まして新聞を読み、用事のある時は午前中に外出を済まして、午後は読書や趣味の時間に費やし、頭が疲れたら料理をしたり庭に出て花や野菜の手入れをしたりする。また、時には編み物をしながらテレビのサスペンスを見たり、スポーツ観戦をする。コロナごもりで運動不足にならないよう、週に1度筋力トレーニングに通い、また随時散歩をする。

「何事もなかりしように日は暮れて誰とも話さぬ1日ありけり」 文江

1人暮らしの気儘もあり、1日中の時間を欲しいままにしているが、出掛けることが少ないので、変化のない事甚だしい。

「飢えるとは食べ物だけにあらざるよ会話に飢

えて寂しさつものる」 文江

コロナの収束を一日も早くと祈るばかりであるが、何とか日々の生活を充実させたいと願い、今年第4歌集「心の風景」を上梓することにした。7月に出版出来てほっとしている。

また、数年来、自詠自書の掛軸を展覧会に出展したり、書籍に短歌を発表している。

普光江文江歌集
第4歌集「心の風景」
発行所 短歌研究社



令和3年の出展状況

4月30日	書籍、ローマ「ETERNA・ART」に短歌5首、
6月4日 ～6日	ドイツ、シャルロッテンブルグ宮殿に半切軸1本
6月8日 ～10日	銀座八丁目アートホールにワイン・ラベル1首
7月24日 ～28日	日光東照宮美術展覧会に半切軸1本
8月5日 ～19日	日本ベルギー芸術交流展に半切軸1本
8月20日	日本美術の杜、美術誌BM56号に短歌10首
8月21日 ～9月21日	日本タンガーマンデ友好展（ドイツ）に半切軸1本
9月23日 ～26日	日本カナダケベック友好展に半切軸1本

鞍田 三穂 (13期生)

鯉淵学園での一番の思い出は、加藤 整さんの存在です。私の在学中は但馬出身者の故小出満二先生の図書整理をしておられた。

その他の思い出は、山陰友の会に特別に招待され、歓迎行事「筑波山登山」に参加したことであった。同窓会は60歳～80歳までのうち5回ほど出席した。

退職後第2の人生は、森林組合立「もくもく木

工館」で働いていたが、膀胱癌、前立腺癌の症状で入院、手術となった。腫瘍の除去する生活が続くこと約10年、その後、腎臓病の機能がクレアチニン数値3になり、5年後の平成22年から人工透析の生活が始まった。その後、腎臓移植で妻がドナーとなり手術をした。7年後に機能不良になり、平成29年、2度目の腎臓移植を弟がドナーとなり移植したが、移植に耐える心臓でなく、3か月かけ2度のカテーテルによるステント手術をした。このように約20年近く病魔と闘う人生でしたが、お陰様で移植した腎臓が同じ血液型であったため、今では完全に回復したように思う。

令和の時代に入り、病院に行く回数は減少した。現在は兵庫県高齢者放送大学に20年在学している。趣味のグランドゴルフは、地元で週のうち水曜日、木曜日に練習しているほか、地区大会、町大会に参加するために、テクノダイセルサッカー場で汗を流している。

家の農業は、昭和62年圃場整備が終わり、20アールの田4枚は、平成22年人工透析の時から無料で貸付している。佐用町高年大学は、コロナウイルスの対策で、昨年1年間は休みでしたが、今年の7月から再開され、パソコン部、園芸部、グランドゴルフ部には毎月水曜日、木曜日に参加する予定だ。

7月2日、2回目のワクチン接種が終わり、オリンピック大会を楽しみに待っている。

岩本佐知子 (20期生)

私は俳句を趣味にしています。田舎暮らしのつれづれに俳句で近況を述べたいと思います。

○人生百年と言われても

「団栗のごと現世を転がりぬ」と過ぎてみれば短く感じています。

○後期高齢者となった自分を見ると

- ・五月晴老害という不燃物
- ・処世訓は見ざる聞かざる菊の酒
- ・間違うは呆けるに非ず只暑し

○いやなことがあっても

「五月闇わはははははと笑うべし」と笑い飛ばし

○自然とともに暮らすなかで

- ・緑陰に椅子置けばはや奥座敷

- ・名月と座るベンチを庭に置く
- ・刈られゆく稲田に座してみる夕日

○そして最後は

「冬椿ぼとり大往生の音」と人生を締めくくれたら良いと思っています

甲谷 克己 (21 期生)

コロナ、緊急事態宣言とこの時代をどう過ごすのか！ 私は第二次世界大戦が始まった年に生まれ、幼少の頃は物が無い、えらい時代でしたが、その頃の方が平和で幸せだったのかしらと想いを浮かべている所です。貧しいけれど幸せ、どちらがいいのか！ 考えさせられます。

中国から世界へ、私が覚えているのは、ペスト菌が広まった時代がありました。結核やハシカ、シラミといったものがありました。私が教育を受けたのは、小学校1年生からです。自分の名前も書けなかったのを覚えています。早くこの世からコロナが去っていく事をお祈りし、ペンを置きます。皆様お元気で!!

高木 経吉 (22 期生)

6月15日、コロナワクチン2回目接種済。これで支部会も同期会も参加出来る。地区内の田植えも済み、「さなぶり」の焼肉会も出来ます。

気温 35℃でも、今流行のファン付作業着があれば75歳でも大丈夫。

大字 路子 (23 期生)

早くコロナが終息し、みんなが集えるくらしになってほしいですね、今年は趣味で取り組んでいます俳句を、ささやかながら句集に取りまとめたいと思っています。実現しましたら連絡いたします。

田中 義治 (23 期生)

一日も早く、普段の生活に戻れるように、毎日感謝し我慢しながら、自分に出来る範囲内で体を動かし、プールに行き楽しんで歩いています。

一日も早く、コロナが終息し、明るい社会生活ができるように期待したいものです。

吉川 千鶴子 (24 期生)

同窓生の皆様、こんにちは。24期卒業の吉川千鶴子です。

令和元年11月に息子の嫁が家の裏手で小さなパン屋さんをはじめました。オープンしてから一年半ほど経ちますが、毎回完売するほどの評判で、遠くからも買いに来てくださる方も多く、ありがたいことだと思っています。パンの袋入れや、洗い物など少しの時間ですが、出来るだけサポートしてやりたいと思っています。

農業の方は、畑でネギ、里芋、彼岸用の小菊の花をほんの少しですが作って、Aコープの生産者コーナーに出荷しています。今は雑草とのたたかひの毎日です。

特産品の開発では、コロナの影響でイベントは全て中止となり、活動が制約されている中で、漬物づくりのみ継続しています。10人ほどのグループでワイワイ、ガヤガヤと楽しく活動しています。

また、集落のコーヒーサロンのスタッフとして、地域の人達とのコミュニケーションを大切にしながら活動していますが、今はコロナの関係で休止していて、早く再開出来る日を待ち望んでいる今日この頃です。

長尾 輝夫 (24 期生)

今年は、息子の手伝いをあてにし、黒大豆 20a、水稲 80a の作付けをしたが、コロナ禍で帰省もままならず？ 体力低下が著しい老体に鞭打ちながら農業を続けております。

また、高齢化率が50%を超えた50戸のわが集落には、サル・シカ・イノシシ・カラス、さらに近年はモグラ・野ネズミ・野ウサギらの有害鳥獣が総出！ これらとの戦いにも苦戦しながら、少数の老兵たちで、ふるさと防衛に努めております。

福井 寛行 (26 期生)

地元の町代表である区長を2期目もやっています。町内区長・会長の経験ある先輩・同窓生の皆様には、ご納得いただけるかと思いますが、区長を長く続けていると、自分の意思にかかわらず市内や地域の役職を引受なければなりません。今年から13町と9町の代表や副代表に選出され、



あわせて西脇市内、地区内のボランティア団体、社会福祉法人、非営利法人、土地改良区等の代表、役員などに就任させられています。数えて見れば何と10団体以上の代表・副代表・理事・監事の役職を持つことになりました。(妻に叱られ今になって反省しています)。現在、もっとも忙しいのが防災リーダー養成講習会と、まちづくり検討委員会、農作業検討会議であります。

趣味としている畑での野菜栽培は、区長の仕事の合間に行っているため、野菜の出来がいま一つ。ジョギングは月1回～2回走れたらいい方で運動不足に悩まされています。

この8月で区長2期目が4ヶ月過ぎましたが、卒業まであと1年7ヶ月です。多忙な日々が続きますが、指折り数えて、卒業の日が来るまで健康に留意し頑張ろうと思っています。

岡本 昭治 (31期生)

今年10月に豊岡市議会議員選挙(14日告示、24日投開票)が行われます。

4年間、皆様の御支援を頂き活動してきましたが、次の4年間も活動させていただくため、10月の選挙に向けて頑張っていきたいと思っています。御支援のほど、よろしくお願いいたします。

田中 智巳 (36期生) (旧姓 今北)

還暦も過ぎましたが、まだまだ元気で頑張っています。孫も5人、これからが楽しみです。農業は水稻少々の兼業で細々とやっていますが、まだJA兵庫六甲にお世話になっています。卒業後、三田市農協にお世話になり、営農一筋でこの年になりました。JAを取り巻く環境変化も厳しいものがありますが、もう少しの間、農家所得の増大、農業生産の拡大、地域の活性化に尽力したいと思っています。お互いにそれぞれの立場で頑張らしましょう!

近本 昌博 (43期生)

今年度より有害鳥獣班員として活動を始めました。

芦田 靖司 (44期生)

現在、昨年よりJA兵庫中央会の営農支援部に

在職しております。中央会に入会以来、久しぶりに営農部署に配属となりました。

コロナ禍でJA等へ出向く機会は少なくなり、リモートでの会議等しております。

県内でも担い手不足、高齢化が一層進んでおり、担い手確保が喫緊の課題であり、これらの諸課題解決のための業務を行っています。

旧講堂の解体工事



鯉淵学園は、創立75年の歴史から次の75年に向けて、新しい学園に生まれ代わろうと民間活力により産学連携の教育体制を発足させました。

来年の4月を目途に学校法人として、新たな学園を構築するために、現在、その移行準備を進めているようです。

行政からは教育施設の耐震化が求められ、昭和10年代、「満蒙開拓義勇軍」の幹部養成施設として建設された旧講堂や、園芸農場の事務所として使われた建物を解体する必要があったそうです。

古い卒業生にとっては、入学式や卒業式、諸々の学園行事等で使用した講堂は、数多くの思い出が残っていることと思います。しかし、母校の新たな旅立ちを期待したいものです。

訃報

神戸市西区にお住まいの栗山 要さん(1期生)が令和3年4月5日にご逝去されました。慎んで栗山さんのご冥福をお祈りいたします。

令和3年9月1日発行

編集責任者

同窓会兵庫県支部会長 福井寛行(26期生)